

10月20日(月)

『わたしはある』

聖書朗読 ヨハネ 8:48～59

神はモーセに仰せられた。「わたしは、『わたしはある』という者である。・・・これが永遠にわたしの名、これが代々にわたってわたしの呼び名である。」

出エジプト 3:14～15

先日ある動画を見ていると、若い説教者が何のためらいもなくイエスを「ヤロー」と呼んでいました。私は耳を疑うと同時に、イエスが『わたしはいる』("I AM" = 『わたしはある』出エジプト3:14)と名乗られた本日の聖書箇所を思い起こしました。『わたしはある』は神様ご自身がお使いになる最も聖なる御名です。

敬虔なユダヤ教徒はこの御名『わたしはある』を深く尊重し、神に不敬になることを恐れ、決して口にしない者もいる程です。ユダヤの聖書を写本する場合も筆記者は『わたしはある』と書く際は真新しい筆を用い、この御名をただ一度書いただけでその筆を破棄します。

ユダヤの人々がここまで畏敬する御名ですから、イエスが本日の聖書箇所『わたしはある』と言われた時もその場に居合わせた人々は主の言わんとすることをすぐに理解しました。つまり、イエスは——不敬にも!——ご自身をここに全知全能なる神と一つであられると宣言されたのです。彼らが石を取ってイエス様に投げつけようとしたのも無理がありません。

現代の私たちはどうでしょうか? くだけたことが良しとされがちな今日の社会・文化の中で、私たちは主の御名を呼ぶとき、また主について語る時に失礼を働いてはいないでしょうか。イエス様はどこかの道端にいる「ヤロー」ではありません。主は、心から賛美され、敬われるべきお方です。いと高き神でいらっしゃるのですから。

私たちも偉大な『わたしはある』のお方の御前で立ち止まり、頭を垂れましょう。

讃美歌 309

祈り 最も聖なる主よ。御名があがめられますように。あなた様への敬意が私たちの一つ一つの言動に表されますようにお祈りいたします。

大いなる『わたしはある』であられる主イエス・キリストの御名を通して。
アーメン。

ジャン・ノックス
テキサス州 グランベリー

今日の力

2014年 10月20日～10月26日

翻訳 箕作玲子

編集 岩田欣三

この冊子の聖句は、新改訳聖書第三版を使用しています。

御茶の水キリストの教会

10月21日(火)

主を見上げて

聖書朗読 ヨハネ 9：13～34

『わたしはあわれみは好むが、いけにえは好まない』とはどういう意味か、行って学んで来なさい。わたしは正しい人を招くためではなく、罪人を招くために来たのです。」

マタイ 9：13

いつの世にも「パリサイ人」がいるもので、彼らは悩みごとに小さな問題を見つけては文句を言います。周囲の「パリサイ人」がどんなところに問題を見つけ、文句をつけて騒ぐのかを見るのは興味深いものでもあります、わびしく苦笑いをさせられることも多々あります。

イエス様が地上にいらした時代のパリサイ人が、イエス様が安息日に盲目の人を癒したことに關して文句を言う姿からは、彼らの信仰の基盤とも言える三段論法を読み取ることができます。つまり、1)神様にとって正しい者とされ、受け入れていただくためにはきよくなければならない。2)きよくあるためには信仰上の規則を守ることだ。3)最もきよい人とは規則をきちんと守れる者だ。

ここで問題なのは、パリサイ人のこうした信条には真実が一切含まれていない点です。一切。神様は私たちがきよくあるかどうかではなく、イエス様の完全なきよさによって私たちを受け入れて下さいます。律法などの規則は人のために設けられたのであって、人が規則のために造られたものではありません(マルコ2：27)。また、規則を完全に守ることのできる人は存在しません(ローマ3：12, 23)。

自己ばかりを見ている限り、また、規則を守れるかどうか意識が向いている限り、私たちはおごりに悩ませられるでしょう。逆に主を見上げ、主の善に身を浸した時、私たちは自身の欲望や欠点を忘れ、日常の中の主の恩恵に感謝し、喜びをもって主を賛美することができます。

讃美歌 第二編 167

祈り 愛します、光の創造主たる主よ。盲目の私たちの目をあけ、世を光で満たしてください。くださったことを賛美いたします。全ての光はあなた様のものです。私たちが愚かにも「これは私の造りだした光です」とおごってしまうほどに私たちの目が闇に閉ざされてしまうことのないようにお祈りいたします。

イエス様の御名を通して。アーメン。

カーティス・K・シェルバーン
テキサス州 ミュールシュール

10月22日(水)

追憶

聖書朗読 ヨハネ 10：1～13

その時、あなたの国の人々を守る大いなる君、ミカエルが立ち上がる。国が始まって以来、その時まで、かつてなかったほどの苦難の時が来る。しかし、その時、あなたの民で、あの書にしるされている者はすべて救われる。 ダニエル 12：1

地域のホスピス主催の「追憶の夕べ」にこの程、息子と二人で参加して参りました。これは、近年天に召された大切な人を偲ぶために設けられた時間でした。参加者は何百人にも上り、各々が大切な故人の写真を携えています。キャンドルが灯され、テーブルの上にはローズマリー(古くより愛と追憶のしるしとされる)が飾られました。会場は故人の思い出で埋め尽くされました。

私と息子は大きな丸いテーブルの席につきました。テーブルの向かい側には若い女性とその弟さんが座っていました。お父様に思いを馳せていたようです。しばらくして、向かいの若い女性が私をじっと見つめて「三十年以上前かしら、雇用開発課にお勤めじゃなかったかしら？」と尋ねるではありませんか！驚き、戸惑いつつ「そうですよ」と答えると「あらスーさん！私はスーさんの元部下よ！」と彼女は言います。私は彼女の話をまるで覚えていませんでしたが、彼女は私を覚えていてくれたのです。

知らない人ばかりに囲まれた中で、どなたかが自分を覚えていて下さった時の気分は素晴らしいものです。また、愛する人を亡くした悲しみを分かち合え、心からのお悔やみの一言をいただいたり、故人の思い出を呼び起こして下さるような質問をいただいたりするのとは大変な慰めになります。

私たちは自分のことを分かち合え、知っていてほしい、覚えていてほしいと願います。主が私の名をお呼び下さる時に私を包み込むであらましよう栄光の喜びを心待ちにしています。私の名はすでにいのちの書に記されているのですから。

讃美歌 200

祈り 愛します主よ。私たちは御言葉によってあなたを覚え、愛します。あなたは私たち一人ひとりの名前を分かち合ってください、いつも覚えてくださいます。いつでもあなたに呼びかけることを忘れず、あなたが私たちの主であることを覚えていられますようにお祈りいたします。

イエス様の御名を通して。アーメン。

スー・レーサム
カリフォルニア州 アンテロープ

10月23日(木)

イエス様は私たちのために命を捨てて下さった

聖書朗読 ヨハネ 10：11～21

人がその友のためにいのちを捨てるという、これよりも大きな愛はだれも持っていません。
ヨハネ 15：13

数年前、ある大学の野球部の監督が部員の学生に移植するために腎臓を提供し、大きな話題としてメディアに取り上げられました。監督は「私は部員を助けるためなら何だって惜しまない」と発言し、まさにこの言葉を行動で裏付けました。

イエス様はおっしゃいました。『わたしは、良い牧者です。良い牧者は羊のためにいのちを捨てます。』（ヨハネ10：11）。私たちの良い牧者も十字架の上で御言葉を裏付けて下さいました。イエス様が耐えて下さった肉体的な苦痛を想像するだけでも、身体を犠牲にしての愛の偉大さに驚かされます。その上、十字架の死にはこのような意味もありました。『神は、罪を知らない方を、私たちの代わりに罪とされました。それは、私たちが、この方にある、神の義となるためです。』（Ⅱコリント5：21）。このように世の全ての罪と罪の責任を私たちから永遠に取り去り、ご自分のものとされるために、罪なきイエス様が払われた犠牲については想像することもできません。

イエス様が私たちのために命を捨てて下さったことで、私たちはいわば、死にかけていた霊を除去され、代わりに畏れ多くもイエス様の命で満ち溢れる霊を移植していただいたのです！腎臓病を患った人が人工透析器につながれて日々を過ごすことなどよりよほど恐ろしいことに、私たちは死の宣告を受け、罪につながれた人生を歩んでいました。しかし、私たちは癒され、全き者とされました。羊のために命さえも捨てて下さる良い牧者に喜びに満ちた感謝を捧げずに、どうして生きられましょう。

讃美歌 514

祈り 愛します主よ。あなたは私たちを慈しみ、導き、そしてご自身の命をもって私たちの罪と罪の責任をとこしえに取り去ってくださいました。あなたの牧草地に生きる羊の私たちは一つ一つの息づかいごとにあなたの栄光を賛美します。
イエス様の御名を通して。アーメン。

カーティス・K・シェルバーン
テキサス州 ミュールシュール

10月24日(金)

ほんとうの自由

聖書朗読 ヨハネ 11：45～57

ですから、もし子があなたがたを自由にするなら、あなたがたはほんとうに自由なのです。
ヨハネ 8：36

本日の聖書箇所は、ユダヤ人の多くが過ぎ越しの祭りを前にエルサレムに上って来たところで終わります。過ぎ越しの祭りは神によって設けられた年に一度の祭事で(出エジプト12：14)、エジプトでの苦役からイスラエル人が解放されたことを記念するためのものでした。つまり、自由を祝う祭りです。しかし、人々はほんとうに自由だったのでしょうか。

ここでヨハネは、人々がイエス様を捜し、祭りの準備のためにエルサレムにいらっしゃるかどうかに互いに尋ねあっていたと書いています。かつてバプテスマのヨハネが『見よ、世の罪を取り除く神の子羊。』（ヨハネ1：29）と宣言した際に居合わせた人も、もしかするとこのエルサレムの会衆の中にいたかもしれません。また、当時洗礼者ヨハネの正体を探りにエルサレムから遣わされた祭司やレビ人(ヨハネ1：19)もいたかもしれません。

エルサレムに人々が集まるほんの数日前に、イエス様はラザロをよみがえらせたばかりでした。皮肉にも、このことがイエス様にとって、また私たちにとって、重大な局面をもたらすこととなりました。何故なら、『そこで彼らは、その日から、イエスを殺すための計画を立てた。』（ヨハネ11：53）からです。

こうして、ユダヤの人々が過ぎ越しの祭りの準備を整えるこの時に、ユダヤの権力者たちは神の子羊をほふろうと、準備を整えることになりました。ほんとうの過ぎ越しが近づき、ほんとうの自由が人類にもたらされようとしていました。

讃美歌 257

祈り 我らの尊い救い主。地上で愛を实践された日々、自ら進んで犠牲となられた死、そして私たちに希望をお与えくださる復活、全てに感謝いたします。私たちの人生は御手に委ねられています。

イエス様の御名を通してお祈りいたします。アーメン。

チャック・ブライアント
テキサス州 ラボック

10月25日(土)

迎える場所を備えて

聖書朗読 ヨハネ14:1～31

わたしが行って、あなたがたに場所を備えたら、また来て、あなたがたをわたしのもとに迎えます。わたしのいる所に、あなたがたをもおらせるためです。

ヨハネ 14:3

甥が泊まりがけで我が家に遊びに来てくれました。彼のために色々と用意をしたり、泊める部屋を整えたりするのは楽しい時間でした。甥がリラックスして我が家での生活を楽しめるように、と思うと準備をする一つ一つの事柄から喜びが湧き出しました。準備をしながら、甥や甥の家族に思いを馳せることも楽しく、お互いの近況について尋ね合いながらあんな話や、こんな話もできると想像が膨らみました。

ヨハネ14章では、イエス様はご自身が近く、弟子たちのもとを去ることを意識して、彼らを慰め、励まします。イエス様は弟子たちを迎え入れるための場所を備えに行くところでした。そして、イエス様は現在も、弟子たちだけでなく、私たちのために、場所を備えてくださっています。私が甥の泊まる場所を備えた時に覚えた喜びを、イエス様はきっと、私たちのために覚えてくださっていることでしょう。

イエス様は私たちのもとにお戻りくださるとおっしゃいます。また、その際には主ご自身が備えてくださった場所をよりはっきりと示してくださる、ともおっしゃいます。私たちはずっと、イエス様をお待ちしている訳ですが、その間も必ずお戻りくださるそのお約束に慰められます。「わたしのいる所に、あなたがたをおらせる」このお約束を私たちが忘れないように、聖霊をも遣わしてくださいました。イエス様が備えてくださっている場所にふさわしくあるように、私たちも心を備えましょう。

天国を信じるのは人生から逃げることでなく
人生に向かって走ることだ

——ジョセフ・D・ブリンコ

讃美歌 第二編 178

祈り 主イエス様。あなたの再臨をお待ちしております。私たちのために場所を備えてくださり、慰めの御言葉をお与えくださり、感謝します。主よ、どうぞ早く、いらしてください。

イエス様の御名を通して。アーメン。

エディー・フィッツジェラルド
テキサス州 ラボック

10月26日(日)

好かれること

聖書朗読 ヨハネ 15:18～27

むしろ、キリストの苦しみにあずかれるのですから、喜んでいなさい。それは、キリストの栄光が現れるときにも、喜びおどる者となるためです。 I ペテロ 4:13

アーサー・ミラーの芝居「セールスマンの死」の主人公ウィリー・ローマンは、他人にどのくらい好かれているかを自身の価値とみなす、年老いて来たセールスマンという設定です。「彼はまあまあ好かれている。だが、そこまでは好かれていない」とはウィリーが他のセールスマンを見下して吐く台詞です。

人は皆、好かれたいものです。誰かに受け入れられたいがために、時にはとんでもないことまでやって見せます。しかし、弟子たちが世を生き抜き、御言葉を伝えるにあたって、イエス様は敢えて厳しい教えを授けます。——わたしの言葉に従って生きること、世と食い違いが生じることもあるでしょう。食い違えばかりか、あなたがたは世に憎まれることもあるでしょう。世がわたしを憎んだように。——と。

初代キリスト者の受けた迫害、と聞いた時、肉体的苦痛を伴う迫害はすぐに思い起こしますが、社会的な迫害に苦しんだ人々のことは忘れがちではないでしょうか。確かに、イエス様への信仰のために殺された者も鞭打たれた者も多くいました。しかし、はるかに多くのキリスト者は、ただ信ずる者であったばかりに、無視され、村や家から閉め出され、そしりを受け、非難される日々を送りました。こうした日常的な迫害は容易に耐え得るものではありません。

世の慣例に従えば、周囲と仲良くすることも、好かれることもできるでしょう。無宗教な価値観に支配された世の中に合わせることもできます。大勢の偏見や利己心や不純を真似れば、大いに世に好かれることでしょう。しかし、です。しかし。私たちには、イエス様のように勇敢で善であるように努めることが必要なのではないのでしょうか。もちろん、イエス様のように生きることは、イエス様の受けた社会的な非難を受けることでもあると覚悟せねばなりません。光射すところ、影が忍び寄るのです。

賛美歌 316

祈り 天にましますお父様。どうぞ私たちに勇気をお与えください。たとえ誤解や非難、憎しみを招こうとも、思いやりを持ち、無欲でいられるようにお力をください。どうぞ、イエス様に少しでも近づけますように私たちを変えて下さい。

イエス様の御名を通して。アーメン。

ケン・デュラム
テネシー州 ナッシュビル